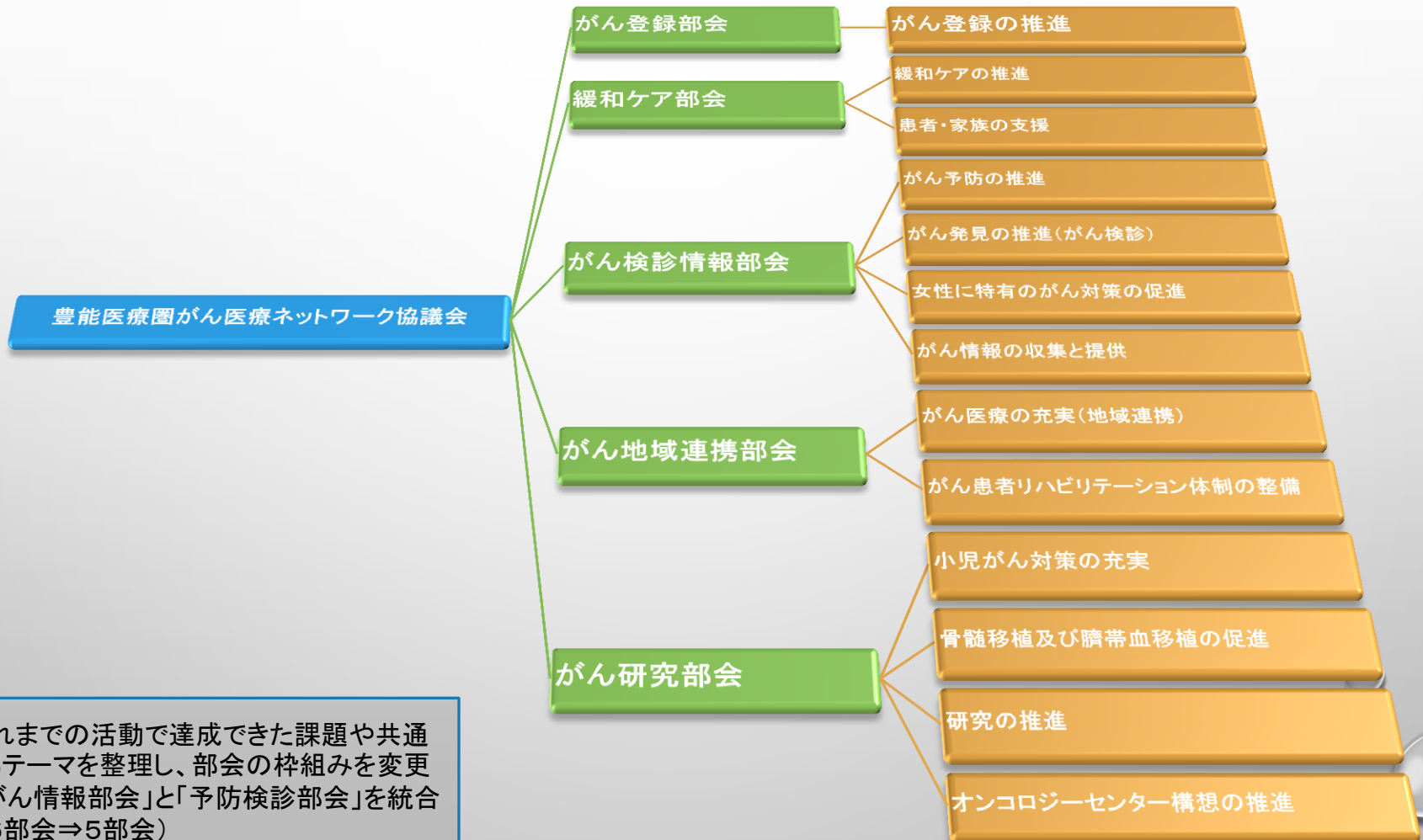


平成26年度第1回 豊能医療圏
がん医療ネットワーク協議会 活動報告

組織図



・これまでの活動で達成できた課題や共通するテーマを整理し、部会の枠組みを変更
・「がん情報部会」と「予防検診部会」を統合(6部会⇒5部会)

がん登録部会

◆【26年度の活動目標】

- ◆がん登録実務者のスキルアップ
- ◆がん登録データの情報提供方法等の検討
- ◆早期子宮頸がんの登録漏れを少なくする方法の検討

◆【26年度の活動予定】

- ◆先進的に取り組んでいる病院の施設見学
- ◆がん登録実務初級者向け大腸がん学習会の開催
- ◆部会メンバーで子宮頸がん学習会の開催

◆その他

- ◆がん登録データの公表について「がん検診情報部会」との連携を行う

緩和ケア部会

◆【26年度の活動目標】

- ◆緩和ケア研修会の受講促進
- ◆緩和ケアの普及・啓発
- ◆患者及び家族が心の悩みや体験談を語り合う場の提供

◆【26年度の活動予定】

- ◆対象数および豊能二次医療圏内の研修会参加人数のキャパシティを調査し、充足率を把握する
- ◆緩和ケアマップ(豊能二次医療圏内共通)を作るため、共通のフォーマットを作成する
- ◆拠点病院のサロン開催の現状を把握し、開催情報を共有・交換を行う

◆その他

- ◆がん患者団体との連携に関しては、「地域連携部会」と共同で取り組む

がん検診情報部会(1)

～がん検診～

◆【26年度の活動目標】

◆子宮頸がんについては、圏域別比較では、年齢調整死亡率が府内でも最も高いことに加え、府立成人病センターから、当圏域での進行度・早期割合が府内で最も低いとの情報提供があったことから、圏域内の課題ととらえ、拠点病院、医師会、保健所・市町の健診部門が協力・連携しながら、検診や受診につながる効果的な啓発活動に取り組む

◆【26年度の活動予定】

- ◆既に各市町で実施している啓発活動のなかで、他市町の取り組み状況も参考としながら既存事業に少し工夫を凝らした啓発活動に取り組む
- ◆拠点病院、保健所、市町が期間を定めて「ネットワーク協議会」の冠名を使用した広域的な啓発キャンペーンを一斉に実施する
- ◆拠点病院で実施している市民公開講座において、「子宮頸がん」をテーマとして開催する

がん検診情報部会(2)

～がん情報～

◆【26年度の活動目標】

- ◆患者にわかりやすく、正確な情報提供に努める
- ◆がん情報提供コーナーの情報を継続的に更新する
- ◆各部会と連携のうえ、豊能二次医療圏内で統一可能な情報提供を行う
- ◆各拠点病院の提供する手術件数など数値の取り方の定義について明確にする
 - ・がん件数は、術式のみでなく、病理結果を確認し悪性のものをとるように各拠点病院の意識統一を図る
 - ・悪性腫瘍手術件数に、姑息的手術や生検、ポート留置術などもカウントするかを検討する

◆【26年度の活動予定】

- ◆各拠点病院ホームページを最新化する
- ◆がん情報提供コーナーからつながる各拠点病院の情報を引き続き最新化する

がん地域連携部会(1)

◆【26年度の活動目標】

- ◆ 地域医療従事者を対象とした研修会の情報共有
- ◆ セカンドオピニオン相談体制の充実
- ◆ がんクリティカルパスの普及・支援
- ◆ がん患者リハビリテーション体制の整備

◆【26年度の活動予定】

- ◆ 研修会情報の共有は、府内の研修情報を集約する府立成人病センターに最新情報を提供するとともに、センターから配信された情報を各拠点病院のホームページ等で公開する。
- ◆ セカンドオピニオン相談体制は、25年度に部会で集約・公表している情報の更新に努める。
- ◆ がん地域連携パスは、25年度にまとめた情報の確認、及び各拠点病院での運用上の問題点を抽出・解決を図ったうえ、情報共有する。

がん地域連携部会(2)

◆【26年度の活動予定】 続き

◆がんリハビリテーション体制の整備は、各拠点病院からあらたに機能療法士を部会メンバーに加え、25年度アンケート(マンパワーやがんリハに対する患者の認識不足等)の問題点を議論するとともに、がんリハ担当者が実施するうえで工夫している点を抽出して議論を深める。

◆その他

◆部会の意見交換にあたり「メーリングリスト」の利用を検討する

がん研究部会

(1) 小児がん対策

● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

阪大病院は、市立豊中病院、大阪市二次医療圏のがん診療連携拠点病院等と連携し小児がん患者の診療に取り組んでいる。今後は、小児がん拠点病院である大阪市立総合医療センターと大阪府立母子保健総合医療センターと小児がんに関わる医師の教育等で連携していく予定である。

(2) 骨髄移植および臍帯血移植の推進

● 骨髄移植および臍帯血移植の現状

造血幹細胞移植の件数は年間平均27件程度である。移植の幹細胞ソースとしては兄弟間、骨髄バンク、臍帯血のすべてに対応している。特に骨髄バンクからの移植が多く半数以上を占めている。

(3) がん研究の推進

● 多施設臨床研究の推進(特定非営利活動法人SCCRE)

がん臨床研究を実施する7つの研究会(消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等)を支援している。

(4) 高度先進医療の推進と人材育成

● 以下の先進医療を現在実施中である

1. 腹腔鏡下子宮体がん根治手術(先進医療A)
2. ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術(先進医療B)
3. パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法(先進医療B)
4. 術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法(先進医療B)

● がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(大学院)

24コースで78名が在学中

(薬物療法、放射線治療、緩和医療、外科治療、放射線物理、細胞診、がん看護等)